

スポーツ科学実習(Sports Science)

担当教員名	松下 幸一、後藤 太之	
学科・専攻, 科目詳細	都市システム工学科 5年 後期 1単位 実技	
学科のカリキュラム表	一般科目 選択科目	
共生システム工学の科目構成表	教養科目 保健体育系	
学習・教育目標	共生システム工学	A-3(70%) B-3(30%)
	JABEE基準1(1)	(a)
科目の概要	自分自身さらには人々が健康に生活をし、体力の向上や維持を図るためには何に心掛け、どのように生活していけば良いかを学び、それを実践できる習慣を身に付ける。また、安全で楽しくスポーツを行なうための指導法を習得するため、授業時には準備運動やグループ分けなどの指示は当番制で学生が行う。なお、後藤教員の授業では学生による模擬授業を行ってもらう。	
テキスト(参考文献)	新版保健体育概論(近畿地区高専体育研究会編:晃洋書房)	
履修上の注意	・トレーニングウェア、運動靴を着用すること。 ・アクセサリ類、時計、その他不必要な物の着用を禁止する。 ・遅刻は開始20分まで。20分以後の参加は認めるが欠席扱いとする。	
科目の達成目標	(1)自己の体調管理、安全への配慮、ウォーミングアップとクールダウンなど、スポーツをする際に必要な事柄を理解し実践・指示ができる。 学習教育目標/A-3,B-3 (2)ルールを理解し、ゲームに参加できる技術を身に付けている。 学習教育目標/A-3	
自己学習	各種目における技術、戦略、戦術、ルール等の学習を積み重ねる。また、日頃から体力の維持向上に努めて、体調管理にも気を配る。	
目標達成度(成績)の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件(割合)	1/4以上の欠課
	出席・授業態度(80%) 実技テスト(20%)で総合的に評価し、評価点が60点以上の者を合格とする。	
	(1)スポーツ科学実習では、学生の自主性を尊重した授業作りをしているため、規律を守り積極的に参加する姿勢を求めている。また、服装や用具等の準備、十分なウォーミングアップとクールダウン、安全への配慮など、スポーツをする際の必要な事柄を軽視せずしっかり行なう習慣がついていることを評価している。 (2)各種目のルールを把握している。「サッカー」「バスケットボール」では、シュート・パス・ドリブルなどの技術を状況によって選択することができる。「バドミントン」では、各種ストローク・フライトを状況によって打ち分けラリーを行なうことができる。	
連絡先	koichi@akashi.ac.jp(松下幸一) / tgotoh@akashi.ac.jp(後藤太之)	

授業の計画・内容	
第1週	ガイダンス 各種目の希望調査等
第2週	各種目にてゲーム サッカー/ゲーム バスケットボール、バドミントン/模擬授業・指導案の説明、ゲーム
第3週	〃 サッカー/ゲーム バスケットボール、バドミントン/模擬授業(準備体操5分 練習15分 ゲーム50分 まとめ5分)
第4週	〃 〃
第5週	〃 〃
第6週	〃 〃
第7週	〃 〃
第8週	〃 〃
第9週	〃 〃
第10週	〃 〃
第11週	〃 〃
第12週	〃 〃
第13週	〃 〃
第14週	〃 〃
第15週	〃 〃
期末試験実施せず	